

医師と医師会を結ぶ情報紙

都医 NEWS

Vol. 722

東京都医師会「医学研究賞・グループ医学賞」 「プラタナス大賞」表彰式	01
底流/地区医師会長連絡協議会報告 ほか	02
みどりの広場 ほか	03
ふれあいポスト	04
感染症豆知識 ほか	05
地区医師会長からの一言	06

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部77円



桜とヒヨドリ

撮影：大畑隆郎(板橋区医師会)

令和7年度

東京都医師会「医学研究賞・グループ医学賞」 「医学生懸賞論文 プラタナス大賞」表彰式

「医学研究賞・グループ医学賞」受賞者

- 【医学研究賞】** (敬称略)
- 堀江沙良 (慶應医師会)
慶應義塾大学医学部 内科学(消化器) 助教
「本邦と海外ゲノムデータを用いたがん種横断的ドライバー異常の解析」
 - 山下 祐 (慈恵医師会)
東京慈恵会医科大学 整形外科講座 助教
「新規骨リモデリング分子の発見と骨代謝メカニズムの解明」
 - 内山峻介 (日本医科大学医師会)
日本医科大学 リウマチ膠原病内科 ポストドクター
「高齢発症関節リウマチのリスク因子として血中体細胞モザイクの検討」
 - 水谷知裕 (東京科学大学医師会)
東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 消化器病態学分野 講師
「MLH1 遺伝子欠損ヒト大腸オルガノイドによる腺腫 一癌連関の再現」
 - 望月晶史 (東京科学大学医師会)
東京科学大学病院 呼吸器内科 助教
「受動喫煙により促進される肺発がん機構」
- 【グループ医学賞】**
- Birt-Hogg-Dubé (BHD) 症候群の国内診療レベルの均てん化を目指した研究グループ (順天堂大学医師会)
瀬山邦明(他10名)
「Birt-Hogg-Dubé (BHD) 症候群の国内診療レベルの均てん化を目指した全国多施設共同研究」

「医学生懸賞論文プラタナス大賞」受賞者

- 【大賞】** (敬称略)
- 折井森音 (東京大学)
「系統解剖実習が人文社会医学を含む全ての医学の学びの原点となるために必要なこと」
- 【優秀賞】**
- 長南温郎 (帝京大学)
「承継を使命から選択肢へ 一地域医療の持続に向けた教育改革の提言」
 - 浅野 笙 (東京大学)
「ミクロからマクロへ 一臨床教育改革と医療政策最適化に挑む医学生の視点」



(後列) 市川理事、大久保委員、折井さん、浅野さん、長南さん、山崎准教授
(前列) 落合理事、川上副会長、尾崎会長、堀江先生、瀬山先生、大坪理事

3月24日(火)、東
京都医師会館において
標記表彰式が行われ
た。本年度の「医学研
究賞・グループ医学賞」
は、医学研究賞1名、
奨励賞4名、グループ
医学賞1グループ、ま
た「医学生懸賞論文フ
ラタナス大賞」は大賞
1名、優秀賞2名が受
賞した。

表彰式の前には、当
日出席した5名の受賞
者と、論文の選考に携
わった尾崎治夫会長、
川上一恵副会長、落合
和彦理事、大坪由里子
理事、市川菊乃理事、
次世代医師・女性医師
支援委員会の大久保由
美子委員、受賞者の長
南さんの推薦者である
帝京大学山崎准教授
による懇話会が開催さ
れた。各論文に関する
講評や医学生の卒業後
の進路・将来像について語り
合った。

表彰式では、尾崎会長より
表彰状が授与され、各受賞者
からは謝辞とともに、論文執
筆の経緯や想い、それぞれの
今後の展望が語られた。

令和4年度以来3年ぶりとな
ったグループ医学賞の受賞
者である代表の瀬山氏から
は、BHD症候群という希少
疾患診療に注目してもらった
こと、そして診断から診断後
のケアまで一緒に考え伴走す
る「ハンズオン支援」を核と
した診療モデルに光が当てら
れたことに対する感謝が述べ
られるとともに、他の希少疾
患にも応用し、地域医療を担
う医師の自信と医療全体の質
の向上につなげてほしいとの
願いが伝えられた。

※受賞論文の全文は、東京都医師
会雑誌に掲載されます(「プラ
タナス大賞」は5月号、「医学
研究賞・グループ医学賞」は7
月号に掲載予定)

底流

2026年度診療報酬改定に おいて、垣間見えてきた これからの日本の医療 持続可能な地域医療の守り手である 医師会の先生方へ

2026年度の診療報酬改定の全容が明らかとなった。今回の改定は、本体プラス3.09%という数字が示すところ、その配分はともかくとして過去に類を見ない「物価高騰」と「賃金上昇」への対応に主眼が置かれた内容となった。

今回の改定の最大の焦点は、公定価格ゆえに価格転嫁できない我々医療機関に対して、いかに経営の持続性を担保するかという点にあると思

われる。新設された「物価対応料」や入院基本料等の引き上げは、医療材料の高騰や物価高騰による維持費に対して、我々が国に強く主張してきた「別枠・真水」での評価が一定の形となったものと

考える。しかしながら、大都市東京における人件費の高さ、光熱費・医薬物品費の高騰を鑑みれば、この改定率で十分とは言いが切れないのが本音でもあり、引き続き現場の経営実態を注視していかなければならない。

今回の改定では、今後の医療に対する指針も示されている。東京においては、独居高齢者、高齢者のみの世帯の急増を見据え、過剰な医療提供と考えられる部分は前回同様大きな減算となった。その反面、高度急性期医療を行う病

院には実績に対する高い評価もなされた。また、ベースアップ評価料の継続的な活用や、新設された特定機能病院等紹介患者受入加算（診療所も算定可能）への対応、加えて医療DXの推進や電子的診療情報連携を求められ、幅広い対応が必要となった。事務的な負担は非常に増すが、これらは「質の高い医療」を継続的に次世代へつなぐための基盤となるものである。会員の皆様や診療報酬請求の適正化を推進していくので、ご理解とご協力を賜りたい。

（荏司輝昭）

地区医師会長 連絡協議会報告

令和8年3月13日(金)

◎都医からの伝達事項

(1) 東京都精密検査実施医療機関リスト(乳がん)掲載医療機関の募集について

乳がんの要精検者に対する広域的な情報提供及び精密検査結果把握の体制整備を図るため、東京都において広域的なリストが作成されることとなり、3月23日より東京都保健医療局のホームページにて事前説明会の動画がオンデマンド配信される。リスト作成

(2) 「在宅医療連携シンポジウム」(乳がん)開催について

東京都歯科医師会(では在宅療養を支える多職種連携と食支援の在り方を考える機会として、3月22日(日)午後2時から歯科医師会館にて標記シンポジウムを開催する。地区医師会役員の先生方へ参加についてご案内した。

(3) 令和8年度新規事業等説明について

医療機関への支援に関する各種事業の概要と問い合わせ先について、東京都保健医療局から説明いただいた。説明のあった支援事業は次のとおり。

令和8年度新規事業

- ・地域医療確保緊急支援事業
- ・医療機関診療情報デジタル推進事業

なお、本事業に関する説明資料は後日、地区医師会宛に通知するが、東京都のホームページにも掲載される予定である。

- ・在宅療養体制支援医療機関緊急整備事業
- ・医療機関等物価高騰緊急対応事業
- 令和7年度厚生労働省補正予算事業
 - ・医療機関等における賃上げ・物価上昇に対する支援事業
 - ・施設整備の促進に対する支援事業
 - ・医療分野における業務効率化・職場環境改善支援事業
 - ・病床数の適正化に対する支援事業
 - ・出生数・患者数の減少等を踏まえた産科・小児科への支援事業

◎地区医師会からの報告

- (1) 中央ブロック
- (2) 城東ブロック
- (3) 城西ブロック
- (4) 城南ブロック
- (5) 城北ブロック
- (6) 多摩ブロック
- (7) 大学ブロック

◎出席者による意見交換

- ◎その他
 - ①第161回日本医師会臨時代議員会における代表質問について

東京都医師会 定例記者会見

3月10日(火)開催

尾崎治夫会長は、災害と麻しんは起きてから対策したのでは遅い課題であると指摘し、日頃から備えることの重要性を訴えた。初めに、2026年重点政策の1つ「救急医療と災害への対応強化」を述べ、発生確率が高いにもかかわらず、一人ひとりの備えが必ずしも十分とは言えない現状を踏まえ、災害医療提供体制の整備や啓発に取り組む姿勢を示した。続いて、麻し

んが蔓延する可能性に触れ、引き続き予防の必要性を呼びかけ、各担当役員から概説するとつないだ。

土谷明男副会長は「災害関連死」をいかに防ぐかが大きな課題であると述べた。東京都では、2025年度から災害時要配慮者医療提供部会を設置し、高齢者・障害者・難病患者・妊産婦・乳幼児・外国人など、災害時に情報収集や避難行動を自力で行うこと

医師国保からのお知らせ

令和8年4月からの保険料について

～今年度から、子ども・子育て支援金の徴収が始まります～

18歳以上の方(毎年4月1日時点で18歳以上の方)に、下表の額を納入いただきます。

	子ども・子育て支援納付金保険料(月額)
第1種組合員	1,400円
第2種組合員	700円
家族(18歳*~74歳)	300円

*4月1日時点で18歳の方

医療給付費保険料・後期高齢者支援金等保険料・介護保険料・後期高齢者組合員保険料の改定はありません。

詳しくは当組合ホームページをご覧ください。www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

労災診療費の特例 漏れてませんか?

労災の請求が苦手な先生は
当会へご入会ください

東京労働保険医療協会
会長 尾崎 治夫



東京労働保険医療協会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館 4階 TEL 03-5577-2960



216 みどりの広場

病院の「出口」を支えるということ

日本医科大学医学部医学科6年(3月時点) 廣野優介



で視野に入れて支える医師にならなりたいと強く思った。家族として医療を受ける側に立った経験は、患者さんの不安や葛藤に想像力を働かせる大切さも教えてくれた。

目指すのは「全人的医療」

野に入れ、退院後の人生を設計する診療科である。病気を治すこと、人生を支えることとの両立。その実践こそが、地域医療の未来を形作ると信じている。生まれ育った地域で育まれてきた医療の歴史を受け継ぎながら、次の世代へとつなぐ一人になりたい。そのために、医師会活動にも主体的に関わり、地域全体で患者さんを支える仕組みづくりにも挑戦していく。そして、若手医師としてリハビリテーションの魅力と意義を発信し、志を同じくする仲間を増やしていきたい。地域に根差す医療の灯を絶やさぬために。

救命救急体制の整備が進み、病院の「入り口」は年々強化されている。一方で、患者さんが再び地域で生活していくための「出口」であるリハビリテーションの重要性は、十分に認識されていると、言い難い。リハビリテーション科医は全診療科医師のわずか0.9%にとどまる。超高齢社会において、脳血管障害や整形外科疾患、神経難病などに対するリハビリの需要は確実に増大しているにも関わらず、その担い手は圧倒的に不足している。治す医療から、支え、生活を再構築する医療へ——この転換を現場でどう実装していくかが、現在の医療の大きな課題だと感じている。救命救急で命を救われた患者さんが、その後どのような生活を送るのか、で責任を持つ体制が整ってこそ、医療は真に完結するのではないか。医師を志した原点は、曾祖父の存在にある。約10年前に筆者の母校を卒業し、地域医療に尽力したと幼少期から聞いて育った。その背中を追うように医学の道を志したが、決定的だったのは祖父が難病の進行性核上性麻痺を患った経験である。神経内科医、リハビリテーション科医、そして多職種が連携し、家庭調査まで行いながら在宅生活を支えてくれた。その姿に、医療は病院の中だけで完結するものではないと学んだ。そして、地域に根差し、生活



新緑のケヤキ並木

成蹊学園ケヤキ並木 森に迷い込んだような非日常空間



趣味の散歩

成蹊学園は、武蔵野市吉祥寺北町に位置する敷地面積27万平方メートルという広大な敷地内に小学校から大学までを擁している。そのキャンパスには四季折々の風情が楽しめる武蔵野の豊かな自然が残されている。吉祥寺駅から個性的な物、都民の投票による「新宿100景」、そして環境省の「残したい日本の音風景百選」にも選ばれている。学校が池袋から現在地に移転した1924年(大正13年)に植樹された若木が100年の年月を経て巨木に成長し、まるで森に迷い込んだかのような非日常空間は、ケヤキ並木の突き当りには成蹊大学馬術部の馬場がある。運が良ければ、学生さんたちも休むことな

き並木がある。このケヤキ並木は武蔵野市の天然記念物、都民の投票による「新宿100景」、そして環境省の「残したい日本の音風景百選」にも選ばれている。学校が池袋から現在地に移転した1924年(大正13年)に植樹された若木が100年の年月を経て巨木に成長し、まるで森に迷い込んだかのような非日常空間は、ケヤキ並木の突き当りには成蹊大学馬術部の馬場がある。運が良ければ、学生さんたちも休むことな

都医からのお知らせ INFORMATION

第474回 国際治療談話会 例会「日本における創薬」

(公財)日本国際医学協会 事務局 東京都世田谷区上馬1-11-9 3F TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599 E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: https://www.imsj.or.jp/

日時▶5月28日(木) 19時~21時 形式▶WEB講演 座長・開会挨拶▶村上貴久((公財)日本国際医学協会 理事) (第1部)感想「次の感染症危機に備えて~政府の取り組みを中心に~」中村博治(前内閣官房内閣感染症危機管理統括庁 前感染症危機管理統括審議官) (第2部)講演1「日本の製薬産業の現状と創薬環境」山田謙次(日本製薬工業協会医薬産業政策研究所 所長) / 講演2「日本の創薬力の向上に向けた取り組み」成川 衛(北里大学大学院薬学研究所 教授) 閉会挨拶▶石橋健一(日本国際医学協会 理事長) 申込方法▶右記2次元コードまたは協会ホームページより、事前登録をお願いいたします。 参加・視聴▶無料 取得単位▶日医生涯教育制度1.5単位(CC:3, 7, 8)



知っていますか?

国内最高の薬価は3億円オーバー

難病の「デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)」向けの遺伝子治療薬「エレビジス」が、公的医療保険の対象になり、薬価は国内最高の約3億497万円になることが決まった。厚生労働省が中央社会保険医療協議会に提案し、了承された。国内でこれまで最も高かった薬価は、脊髄性筋萎縮症(SMA)の遺伝子治療薬「ゾルゲンスマ」の約1億6707万円。患者の自己負担に上限額を設ける「高額療養費制度」があるため、患者負担は一定額に抑えられる。「エレビジス」は、スイスの製薬大手ロシュと米国のバイオ企業サレプタ・セラピューティクスが開発した。国内では中外製薬が販売する。

心れあいポスト



各地区会報から

下谷医師会

松村有香

かき氷 ひみつ堂 ~谷中銀座のそばで見つけた、季節を味わう小さな行列~

谷中のひみつ堂、かき氷で有名なお店です。私のクリニックは台東区の北西の端っこにあります。月に一度、ゼロ歳児を健診に行く保育園までの途中にあるのがこの小さなお店です。

谷中銀座のすぐ近く、少し暑くなった頃から秋口まで行列していて、自転車で通り過ぎるときになんだろーと思っていました。私のクリニックの午後いちば予防接種と乳幼児健診の時間ですから、予約が入っていないと保育園に行った後も外来開始まで暇です。平日の昼はお客さんがほとんど並んでいないタイミングがあったので入ってみました。長い長いメニュー表があり、注文して待っているとカウンターの向こうに大きな手回しのかき氷製造機が見えます。ホームページを見たところ日光の天然氷で、三ツ星という蔵元で電力を使わずに寒さだけで凍ったものを使っているのだそう。

一杯につき132回手回して、そこに国産の果実とお店で作ったシロップ、自家製練乳、自家製ヨーグルト、生クリームなどを乗せます。秋にはブドウや栗、冬には苺といったかき氷メニューがあり、

冬限定のグラタンも名物らしいので暑くない時期にも行ってみようと思っています。テレビや雑誌などで取材されることが多く、そういったものを見て訪れるお客さんがたくさんいました。

(『下谷医師会誌』2026年1月 第182号より抜粋)



日光天然氷と手仕事が生む、ひみつ堂のかき氷

かき氷専門店
「ひみつ堂」
■所在地
東京都台東区
谷中3-11-18



中野区医師会

丹下徹彦

最近の楽しみ

こんにちは、中村診療所の丹下です。今回は趣味の一つであるケーキ作りをご紹介します。

そもそもケーキを作り始めたきっかけは、新型コロナウイルス感染症が流行したことでした。緊急事態宣言などで外出が制限されるようになり、子供と公園で遊ぶことも出来なくなりました。自宅内で出来ることを探してYouTubeを見ていたところ、パリ在住の日本人料理家が作ったお菓子作り動画に出会ってしまったのです。余計な解説が入らず、ボウルで卵や粉を混ぜる一定のリズムが耳に心地よく、作業工程はわりとシンプルなのに出来上がったケーキがとても美味しく魅力的でした。

自宅に引きこもっているだけでは退屈だし、何か新しい事にチャレンジしてみたかったのだと思います。自分の母親がよくお菓子を作ってくれていたこともあり、ケーキ作りに抵抗感はありませんでした。

最初に作ったのはニューヨークチーズケーキです。これは妻から「土台の生地をもっとザクザクさせて」という要望に応えるため、何度か繰り返して作りました。当時は妻があまりにもザクザク感を求めるので、「氷じゃないけど、もしかた鉄欠乏性貧血では?」と疑ったほどでした(血液検査で疑いはすぐに晴れました)。当時は息子が3歳、娘が1歳だったので息子しか食べられませんでした。美味しいと喜んで食べてくれたのがとても嬉しかったです。

その後も色々と自分が食べたいものと家族からのリクエストに応じて作っているうちに、動画だけでなくお菓子作りの本も何冊か購入し、その本に自分なりのコツを書き加えて今でも家族の誕生日などに作っています。今では娘も小学1年生になり、休日に一緒に作

ることが増えて親子で過ごす大切な時間になっています。

今後の課題は見た目のクオリティを上げることです。飾り付けやクリーム絞り方などは我流だとなかなか難しく、家族以外の人にお披露目するのはまだまだ先になりそうです。一度お菓子教室に行ってみようと思案中です。

(『中野区医師会新聞』2025年11月No.701より抜粋)



無声拝聴

文京区から春の海を想う

文京区千駄木の高台は、かつて東京湾を借景とする風光明媚な地だったという。区立森陽外記念館の敷地にあった森陽外の旧居「観潮楼」や近隣の「汐見小学校」という名称には、当時この地から望むことができた静かに波打つ東京の海の記憶が色濃く残っている。

の真骨頂だろう。そしてこの葛藤は、現代の我々医師の日々の営みそのものだと思うのだ。科学的なエビデンスで人命を守りながら、同時に目の前の患者の人生や心に深く寄り添う。これこそがAIではなく人間だからこそできる医療であり、文豪の時代から現在まで、いや更に過去にも遡ることができる。医療に欠けることができない一面である。

(編集委員会・大橋誠)

今知っておきたい HIV/エイズの最前線

2025年11月、今後のエイズ対策の方向性を示す「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(エイズ予防指針)」が約7年ぶりに改正された。本稿では、その最前線のトピックを概説する。

HIV感染症の治療は大きく進歩した。抗HIV薬は1日1回1錠の経口薬が主流となり、2カ月に1回投与する長時間作用型注射薬も承認されている。適切な治療によってHIV感染者の予後も非感染者と同等まで改善した。治療の進歩とともに患者の高齢化も進んでおり、長期療養を支える地域医療体制の整備が求められている。

抗HIV療法により血中ウイルス量を検出限界未満(Undetectable)に維持すれば、性的接触によるHIV感染は起こらない(Untransmittable)ことが科学的に示されており、これを「U=U」と呼ぶ。また、世界的な予防戦略である「95-95-95」は、感染者の95%が診断され、95%が治療を受け、95%がウイルス抑制を達成することで、エイズ流行の終結を目標としている。日本では治療率・ウイルス抑制率はいずれも高水準であるが、エイズ発症を契機に診断される例が約3割を占め、早期診断の強化が課題である。改正指針では郵送検査の活用も示された。

さらに、HIVに感染していないハイリスク者が曝露前に抗HIV薬を内服する予防法「PrEP(プレップ): Pre-exposure prophylaxis」も普及しつつある。抗HIV薬の進歩は治療のみならず予防にも直結している。一方で、今回のエイズ予防指針の改正においても、偏見・差別の解消が課題として残されていることは忘れてはならない。

(文責: 今村顕史)

感染症豆知識

東京都医師会 感染症予防検討委員会

FM93 AM1242 月曜から金曜 ニッポン放送 あさ6時10分頃から 『モーニングライフアップ今日の早起きドクター』 ニッポン放送 (AM1242kHz/FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時10分頃から5分程度、東京都医師会の役員・委員会委員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

日本医師会生涯教育講座

事前申込制とさせていただきます

日時 令和8年4月30日(木)午後2時~5時

オンライン(Webex)のみで開催します

日本医師会生涯教育制度 合計2単位 カリキュラムコード 9、0

【申込方法】研修申込システムにて申込

【定員】100名

【申込締切】令和8年4月29日(水)

【問い合わせ先】

東京都医師会 広報学術課

TEL: 03-3294-8821 (代表)

※詳細は都医ホームページをご確認ください



医療技術の最先端と伝統

座長 日本医科大学付属病院呼吸器内科

教授 谷内 七三子 先生

近畿大学医学部皮膚科学教室

主任教授 大塚篤司 先生

公益財団法人結核予防会榎十字病院院長

工藤 翔二 先生

日本医科大学名誉教授

医療における生成AIの活用と課題 大塚篤司 先生

ChatGPTをはじめとする生成AIツールは、医療現場における業務効率化や知的生産性の向上に大きな可能性をもたらしている。本講演では、症例報告の作成、論文執筆支援、患者説明資料の作成など、日常診療および研究活動における具体的な活用方法を紹介します。

併せて、患者情報や臨床画像の取り扱いにおけるセキュリティと倫理的配慮、ハルシネーションやバイアスといった生成AIの限界を踏まえた安全な運用方法についても解説する。実際のユースケースを提示しながら、明日から臨床現場で活用できる実践的なプロンプト設計のポイントまで、医療従事者に求められる生成AIリテラシーを包括的に提示する。

2000年続く肺聴診の歴史と科学 工藤翔二 先生

R・フレンネックによって1816年に発明された聴診器と「間接聴診法」は、長年にわたって経験と伝承の医学として生き続けてきた。音響工学と計測技術の発展を背景に、国際肺音学会(ILSA)の発足(1976年)とP.Forgacs『Lung Sounds』の出版(1978年)は、肺聴診を科学に裏付けられた医学に進化させた。以来50年、この間に発表された論文は1000編を超える。

本講演では、肺聴診の歴史、聴診器に潜む物理学、音の記録・解析法、肺音の分類(肺の聴診に関する国際シンポジウム:日医誌94:2050, 1985)、音は肺の中をどのように伝わるのか、呼吸音はなぜ発生するのか(肺胞呼吸音と気管支呼吸音、ラ音の話)、連続性ラ音と断続性ラ音など、近年の肺聴診学の進歩についてお話ししたい。2000年続く聴診器と聴診学を見直す機会になれば幸いである。

主催 東京都医師会

医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医^{ニュース}NEWS

2026

Vol.
722

地区医師会長からの一言

小金井市医師会と私

小金井市医師会会長 西野裕仁



小金井市医師会の門をくぐった日のことを、今でもはっきりと覚えています。私は医師の家系に生まれたわけではなく、生まれ育った地元という理由で小金井市で開業しました。医師会という存在に、どこか敷居の高さを感じ、不安と緊張を抱えていたのが正直なところでした。初めての例会で、私は子どもの頃に診察していただいていた先生にご挨拶をしました。その時に返ってきたのは、診療室で患者さんに向けられる表情とは少し違う、でも温かく柔らかかなまなざしでした。「よく戻ってきたね」「これから一緒にやっとうごう」まるで親戚の子どもが久しぶりに帰ってきたかのように迎えてくださいました。医師という人生を選んだ自分を、小金井市医師会という家族の一員として受け入れていただいたように感じました。小金井市医師会には、多くの“親戚の皆さま”がいました。診療の悩み、地域との関わり方など、時には冗談交じりに、時には真剣に導いてくれました。その温かさが、地域で医師として根を張っていく大きな支えとなりました。

やがて理事を拝命するようになると、厳しい指導が待っていました。特に忘れられないのが、学校保健担当理事を務めていた頃の出来事です。当時の私は、学校医の権益を守ることに意識が向いていました。そんな私に対し、厳しい言葉が投げかけられました。「なぜ子ども達を一番に考えないのか」「学校や小金井市と対立するのではなく、子ども達を守るために協力しなさい」その言葉は、かつて地元の子どもの胸に深く突き刺さりました。医師会の存在意義とは何か、医師として誰のために行動するのかを、根本から問われた瞬間でした。

2025年から小金井市医師会の会長を拝命しました。いろいろな会議で診療報酬改定の話題を耳にします。日本医師会は物価高騰や賃金上昇へ対応するため、診療報酬の引き上げを強く政府に

求めています。診療報酬の引き上げにより、経営危機の打開や医療従事者の処遇改善を目指す努力には感謝しております。しかし「報酬」の議論が前面に出すぎること、国民に「医師はお金のことばかり考えている」という誤った印象を与えてしまうことを危惧しています。医師が求めているのは、質の高い医療を国民に提供することです。そのために必要な資金が診療報酬です。報道機関が、このことを国民に正確に伝えて欲しいと願っています。

この問題に対して東京都医師会が都民向けに作成した冊子『東京医療崩壊?!』は極めて現実的であり、共感いたします。その一つがスイッチOTC薬の活用です。軽度な症状にはスイッチOTC薬を使用して、それで治らない場合に医療機関を受診する。医療費抑制ありきの政策には反対しつつも、医療崩壊を起こさないことを重視されています。私は耳鼻咽喉科の開業医です。風邪やアレルギー性鼻炎の患者さんが通院しなくなれば、仕事は少なくなってしまうでしょう。しかし耳鼻咽喉科としての役割がなくなっても、医師として世の中のために働くことはできると考えています。そのために東京都医師会の講習会で自己研鑽しています。産業医の資格を取得し、東京在宅医療塾にも参加しています。医療崩壊を起こさず、少子高齢社会を支えられる医師になりたいと研鑽を重ねています。

小金井市医師会は、私にとって単なる職能団体ではありません。医師としての在り方を教えてくれる、もう一つの家族です。小金井市医師会が果たすべき役割は、今までもこれからも変わることはありません。医師同士お互いに研鑽を続けていく場所であること。地域医療を守るために公的機関に協力すること。そして医師の権益よりも国民の健康を大事にすることです。